

② 第4学年の実践

第4学年 ESDカレンダー												須賀川市立白方小学校		
教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
国語	春の風景(Ⅰ③) 俳句教室(Ⅰ③)	調べたことを整理して書く(ⅠⅤ・①③⑤⑦)	夏	夏	調べたことを整理し、発表しよう(Ⅰ・Ⅱ・④⑤⑥⑦)	秋	秋の風景(Ⅰ③)				冬	冬の風景(Ⅰ③)		
算数														
社会		水はどこから(ⅡⅢⅣ・③⑥⑦)			ごみのしよりと利用(ⅡⅢⅤ・③⑥⑦)			泉の広がり(ⅠⅡⅤ①②③⑤⑥)			世界とつながるわたしたちの泉(ⅡⅤ・①②③⑥)			
理科	あたたかくなると(Ⅰ①)	電気のはたらき(Ⅱ③)		暑くなると(Ⅰ①)		とじこめた空気と水(ⅠⅡ①③)		水の姿と温度(ⅠⅡ①③)		物にあたり方(ⅠⅡ①③)				
総合			私たちが取り巻く環境Ⅰ(ⅠⅡⅢⅤ①②③⑤⑥⑦)						私たちが取り巻く環境Ⅱ(ⅠⅡⅢⅤ①②③⑤⑥⑦)					
			外国の人と交流しよう(Ⅰ④⑦)											
			スマイルタイム											
特活			学校をきれいにしよう(Ⅵ⑤⑥)								1/2成人式しよう(ⅡⅥ②⑤⑥⑦)			
道徳		地域の環境を守る(Ⅲ③⑦)		小さな命への思い(Ⅲ②⑦)		命の力(Ⅰ⑥)		昔からの日本のよき(Ⅱ②)		生き物への責任(ⅠⅥ①⑦)		世界に広がる日本の文化(Ⅰ⑤⑥)		
音楽						日本のリズム・世界のリズム(Ⅰ③)								
図工														
体育										育ちゆく体とわたし(Ⅱ③)				
行事	運動会(ⅤⅥ⑤⑦)	愛校作業(Ⅵ⑤⑥)	おやつ作り(ⅤⅥ④⑤⑦)		愛校作業(Ⅵ⑤⑥)	祖父母参観(ⅤⅥ⑤⑥⑦)								
						スキル	自然・生命	エネルギー・地球温暖		ともに生きる		ごみ・資源		

4年生の総合的な学習のテーマ

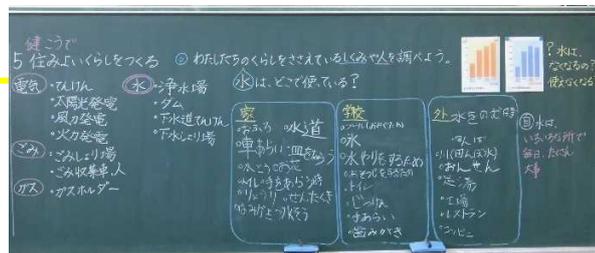
「私たちが取り巻く環境（岩瀬から県へ）」

今年度の4年生の総合的な学習テーマは、社会科の学習内容との関連が非常に多い。そこで、年度当初から、社会科と総合的な学習の時間でつながりを持たせた展開を行ってきた。

まず、社会科の学習における学び方を身に付けることをESDの第一歩目とした。

社会科 ～学び方を身に付ける～

- ① 事象提示・資料等から現状を知る。
 - ② 現状から、考えられることを挙げる。
 - ③ 学習課題を設定する。
- ↓
- ④ 学習課題およびその時間の疑問点についての予想を立てる。
 - ⑤ 予想に基づいて、調べ学習を進める。
- ↓
- ⑥ 調べた結果をまとめる。



⑦ 結果をグループや全体で共有する。

1の段階では

- 事象についての気づき・興味関心が高まり、社会科に限らず他教科での意欲の向上につながった。また、各自が自分の気づきと学習課題との関連を意識しながら、学習を進めることができた。
- 一人一人の気づきから、全体での学習課題の設定までに時間がかかり、単元の導入段階で時数が多く必要になることがあった。

2の段階では

- 調べ学習を進める際に、自分の予想と比べることを常に意識することができた。そこから、さらに、「なぜ、予想と違ったのか」「実際の事象は、どのような理由からか」といった多面的な考え方が少しずつできるようになった。
- 必要な資料収集の能力に個人差が大きく、十分に調べ学習を進めることができない場面が見られた。

3の段階では

- まとめたことをグループや全体で共有したことにより、個人でのまとめでは気づかなかったことも知識として習得することができた。

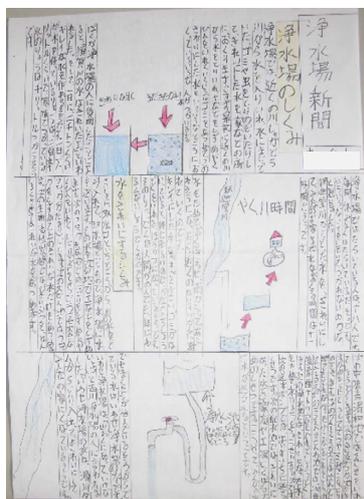
社会科・総合的な学習 ～見学学習を通して、まとめる～

◇ 浄水場・衛生センターの見学



- 総合的な学習の時間で「環境」という視点を持たせたことにより、多面的に考え、質問する姿が見られた。
- 自分たちの未来、環境の未来についての質問も出され、担当の方に称賛いただいた。

◇ 子どもたちがまとめた新聞



③ 第6学年の実践

第6学年 ESDカレンダー										須賀川市立白方小学校				
教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
国語	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう		町のよさを伝えるパンフレットを作ろう		意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう (I V VI・①②③)			話し方を工夫し、資料を示してスピーチをしよう						
算数														
理科														
社会	縄文のむらから古墳のくにへ (I VI・③)		生き物のくらしと環境 (I III・⑥)		長く続いた戦争と人々の暮らし (II V・①③)		わたしたちのくらしと日本国憲法 (II IV・②③)		租税教室 (V IV・⑥⑦)		世界の中の日本 (II IV VI・③⑥)			
総合	白方から世界へI (I II V・①②③④⑤⑥⑦)						白方から世界へII (I IV V・①②③④⑤⑥⑦)							
外国語	スマイルタイム (V VI・①③⑤⑦)													
外国語	外国の人と交流しよう (I・④⑥)													
特活	学校をきれいVしよう (III VI・⑤⑦)												これからの福島を考えよう (III・⑥⑦)	
道徳	共に生きる (I IV・①③⑥)		世界平和への思い (IV IV・①②)		日本のよさを守りたい (I・①⑥)		自然の中の命 (I III・②③)		平和な世界のために (IV VI・②⑥)		地球を守るために (III VI・①②)			
音楽														
図工														
家庭														
家庭	夏をすずしくさわやかに (III・②③)									冬を明るくあたたかく (III・②③)				
体育														
体育	病気の予防 (IV②⑥)													
行事	運動会 (V VI・⑤⑦)		おやつ作り (V VI・⑤⑦)		愛校作業 (V VI・⑤⑦)		愛校作業 (V VI・⑤⑦)		祖母参観 (V VI・①③⑤⑦)					
行事	スキル 自然・生命 エネルギー・地球温暖化 ともに生きる ごみ・資源													

6年生 総合的な学習の時間「白方から世界へI」(環境・歴史・平和・伝統文化)

6年生の総合的な学習の時間のスタートは、昨年度の卒業生が行った「ネパールとの交流」を振り返ることから始まった。まずは昨年度やりとりをしたビデオレターを見て、自分達もどこかの国と交流したいという気持ちを持たせた。そして、今年度は、子ども達の発想を一番大切にしながら学習を進め、白方小版4つの能力・態度を身に付けさせたいと考えた。

ナマステ小学校からのビデオレターとの出会い

6月には法政大学の坂本旬教授が来校し、アメリカのナマステ小学校からビデオレターが届いたことを子ども達に伝えた。しかし、ビデオレターを見るとネイティブの英語で何を言っているのかが分からなかった。児童からは、「英語の先生に質問してはどうか」という考えが出され、岩瀬中学校の英語科担当教員である関芳理教諭とALTの協力を得て、ナマステ小学校の児童が話している英語を日本語へ訳していただいた。また、自分達が伝えたいこともあらかじめ準備しておき、英訳していただいた。

<ビデオレターを見て、岩瀬中の関先生・ALT と学習を進める様子>



また、「ふるさと学習」を経験し、国語科の「町のよさを伝えるパンフレットを作ろう」と関連させて白方地区の遺跡や古墳、昔の様子などをまとめたことで、ナマステ小学校に白方の地域の良さを生かしたビデオレターを作成するというアイデアも出てきた。話し合いの様子を聞いていると、子ども達の頭の中には伝えたいことやビデオレター作成のアイデアがたくさんあることが分かった。

ナマステ小学校への返信ビデオレター作り

子ども達に、ナマステ小学校へ何を伝えたいのか考えさせた。テーマは、「学校生活」、「学校行事」、「学校中みんな仲が良い様子」、「学校の周りや校舎内の紹介」、「授業の様子」の5つになった。学校生活のグループでは、給食を紹介することになった。道徳の「日本のよさを守りたい」で和食が大切な日本の文化であることを学んだ子ども達は栄養バランスの良い給食をおいしく食べる様子を撮影した。また、自分達で配膳や片付けを行う様子も大切であると考え、ビデオレターに加えた。また、縦割り班での活動が多く、1年生から6年生まで仲が良いという白方小学校の良さを伝えるため、縦割り清掃や白方っ子タイム（縦割り班での業間運動）にも積極的に取り組むようになった。

7月19日には、法政大学の坂本旬教授を招いて、ビデオレターの発表会を実施した。5年生にも参加してもらい、次に作るビデオレターで生かすことができるよう、たくさんの意見をもらった。

<ナマステ小学校へのビデオレター作成の様子>



アメリカについて調べ学習 ～ ポスターセッション

2学期になり、ナマステ小学校から返信が来るまでアメリカについての知識を増やしておけば、次のビデオレターに生かすことができるだろうと考えた。そこで、2学期はアメリカについて「食べ物・生き物・生活（お金や習慣など）・大統領・言語・偉人・文化や行事」などのテーマで調べ学習を行った。インターネットが中心ではあったが、社会科の「日本とつながりの深い国々」と関連させて進めたことで、社会科の教科書や資料集、図書室の本からもたくさんの知識を得ることができた。家に帰ってから自主学習でアメリカについて調べてくる児童も見られた。そして、調べたことを模造紙にまとめてポスターセッションを行った。さらに、学習を進めながら単元のつながりを見直し、E S Dカレンダーの修正を行った。

<ポスターセッションの準備の様子>



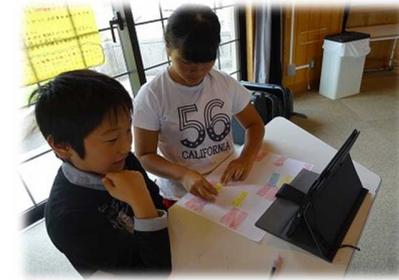
<ポスターセッションの様子>



<付箋を島分けする様子>



<タブレットで調べる様子>



ポスターセッションでは、タブレットを用いて映像を流しながら発表したり、アメリカの世界遺産の写真を見せながらランキング形式で発表したりと各班で工夫が見られたが、原稿を暗記できていなかったり、相手を見ながら話せなかったりと、準備が不十分であった。聞き手には、良かった点や質問、アドバイスを色分けして付箋に書かせた。発表後、グループごとにまだ調べたりないことが出てきたため、その場ですぐにタブレット端末で調べ学習を行った。

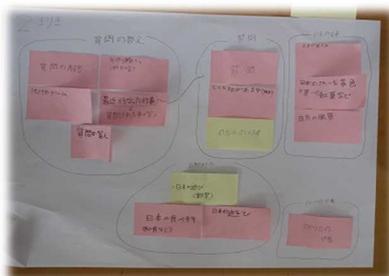
「白方から世界へⅠ」のまとめとして、祖父母参観で今までの交流の成果を地域の方々に発表した。

「白方から世界へⅡ」Chicago HOPES for Children（シカゴホープス）との交流

ナマステ小学校から2回目のビデオレターが来るはずだったが、交流が難しくなると坂本旬教授から連絡があった。そこで、坂本旬教授にシカゴ市にあるルーズベルト大学のJiwon教授を紹介してもらい、直接メールでやり取りをして、「Chicago HOPES for Children」という避難所で過ごす団体からビデオレターをいただいた。今回の交流では、「アメリカの調べ学習」、国語科の「意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう」の学習を生かしてビデオレターを作ろうと子ども達に伝えた。

ビデオレターのテーマは、「日本食」、「日本の文化」、「昔遊び」、「学校行事」、「未来について」の5つになった。絵コンテの作成にも慣れ、自己紹介の仕方やBGMまで考えながらビデオレターの作成をすることができた。また、ワールドカフェ方式でお互いの映像を見合い、メッセージをより分かりやすく伝えることができるよう話し合いをしてよりよいものにしようと努力する姿が見られた。

<Chicago HOPES へのビデオレター作成の様子>



何を伝えたいのかを付箋に書き、グループごとに話し合っ
て島分けをさせた。伝えたいことがたくさん
出された。

今まで学習してきた英文を使い、できるだけ自分達でセリフを
英訳して撮影した。英語の発音にも気を付けた。

自分の名前を書いた画用紙を持って自己紹介したり、図やグラ
フを使ったりするアイデアも出された。

4 「白方フェスタ」での発表

本校では、各学年の学びと6年間を通しての学びが児童にとってストーリー性のある問題解決的なものとなるよう、次のようにテーマを設定しています。設定にあたっては、担任や児童の課題意識を生かすことができるよう、ある程度大きな内容にしています。

ただ、これらのテーマによるE S Dの学習は始めたばかりです。学校や地域の実態に合い特色を生かした学習ができるか、児童の発達段階に合っているか、E S DやE S Dの視点に立った学習指導の目標を達成できるものになっているか、など、実践を通して検討すべき点が多くあると考えています。

- 1 学年：「見つけよう 知らせよう いろいろなひみつ」（学校のもの・ひと・こと）
- 2 学年：「見つけよう 知らせよう いろいろなひみつ」（学校のまわりと自分自身）
- 3 学年：「白方のよさを見つけよう」（白方と須賀川市に目を向けて）
- 4 学年：「私達を取り巻く環境」（岩瀬から県へ）
- 5 学年：「私達の生活と環境」（国とのつながり）
- 6 学年：「白方から世界へ」（環境・歴史・平和・伝統文化）

また、本校では10月に「祖父母参観」という、保護者・祖父母・地域の方々・学校の教育活動にご協力をいただいている方々をお呼びしての大きな行事を毎年行っています。この中に、「白方フェスタ」という児童の発表の場を設け、E S Dで学んだことを発信（発表や中間発表）しています。

担任は、これを見据えたうえで、生活科や総合的な学習の時間を中心にテーマに基づいた長期的な学びをデザインします。児童は、「白方フェスタでの発表」ということも一つの目標としつつ、E S Dの学習を進め、主体的な学習態度や表現力・プレゼンテーション力を身につけていきます。

